

軽米町教育振興運動推進委員会

- 「テーマ」
- 震災を超えて・新たな教育課題への取組
組織の見直し・地域コミュニティ再生の取組
 - PDCAサイクルによる推進の取組
年間を通じた全県共通課題・モデルプログラムの取組
 - 地域ぐるみによる「いわての復興教育」の取組
防災教育・被災地支援交流・地域を担う人材育成の取組

活動の様子



『 みんなで守ろう地域の安心・安全なくらし 』

～子ども会リーダーの育成を通じた地域防災や地域の安心・安全の取組～

1 地域の教育課題

- ・平成11年に発生した町内の川の氾濫から12年、東日本大震災や台風による水害、雪害などが続き、地域防災への意識が強まっている。
- ・地域の防災や安心・安全なくらしについて、地域で取り組む必要がある
- ・学校数、児童数の減少により子ども会の活動に様々な問題が生じている。そのために、リーダーの育成が急務となっている。

2 復興教育における5者の役割

○課題解決のためのそれぞれの役割

- <子ども> 安心・安全なくらしについて意識を持ち、学校や地域の取組に参加する
- <保護者> 学校や地域の取組に親子で参加し、家庭にける防災意識を高める
- <学校> 地域との協働により、防災教育・復興教育を推進する
- <地域> 関係機関との連携により、地域防災に積極的に取り組む
- <行政> 学校や地域の復興教育に関する取組について積極的に情報提供をする

○課題解決のための取組

- ・子ども会のリーダーを育成するとともに、復興、防災教育における地域人材の育成を目的として、毎年行なっている「軽米町子ども会リーダー研修会」に地域防災の活動を取り入れる。
- ・「安心・安全マップ」や身近なものを使った防災グッズづくりを通して、子ども達の意識を高めることをねらいとする。
- ・単位子ども会での「地域の安全・安心」の取組や地区防災訓練に参加するなど、活動したことを地域に活かす。

③ 取組の様子

(1) 「安心・安全マップを作ろう」

指導 県北教育事務所 社会教育主事

- ①身の周りでおこる災害について考える。
 - ・3.11 みんなはどうしていたか。
 - ・避難する場所や災害時何どう行動するか、家庭では決まっているか。
 - ・多くの命を奪う不慮の事故も災害である。
- ②自分の家を中心に、危険な場所や何かあったときに必要な場所を確認する。
 - ・事故の起こりそうな場所
 - ・災害時の避難場所、病院、お店など
 - ・近所の親戚や一人暮らしの方など
- ③学校や子ども会活動として、「みんな」の安心・安全マップをつくってみる。

(2) 「ろうそくづくり」～廃油を使って～

指導 地域ボランティアの皆さん

- ①ジャムなどの空き瓶に、底につく長さのたこ糸をきり、割り箸をつかって中央にたらす。
- ②家で使ったてんぷら油を凝固剤を入れて冷めないうちにビンに入れる。
(油絵の具を油に溶かすと色がつく)

- 身近なことから考えたり、新しく知ったことをみんなに伝えたりすることが大切である。

4 課題の再検証

- ・「いわての復興教育」については、学校が中心となって推進されるが、地域防災については、家庭・学校・地域・行政が連携し、町全体で組織的に取り組む必要がある。
- ・行政が主体となって行っている子ども会のリーダー研修会に、育成会(保護者)や学校の担当の先生を交え、多くの大人が関わって、地域の人材を育成する必要がある。